

写真集 夏季施設のこどもたち

今年はつゆ明けが遅れ、いつまでもじめじめと、うつとうしい日が続きましたが、それでも一度雲が切れると、ギラギラと強烈な日差しが都会のアスファルトを照らしつけます。こうなるともうこども達はぢつとしてはいられません、海に、山に、自然の懐に抱かれて思う存分羽をのばしたくなります。これらの学童を迎えて、今年も夏休みに入ると同時に、六ヶ所にある区立の夏季施設は一斉に開かれました。今号ではこれら夏季施設での生活の断片をカメラに収めてみました。夏休みももうじき終ろうとしています。ご家庭の皆様、これをご覧になりながら、夏季施設に行かれたお子様方の楽しかつた思い出を聞いて上げて下さい。



(八月七日 九段・麹町・淡路小児童)

鎌倉臨海学園は鎌倉市材木座にあり、ふだんは虚弱児童の養護学園として使われています。小学校五年年の児童が、一期二百名程度、三泊四日の日程をここに過します。海岸にはほど近く、屋間でも波の音がよく聞えて来ます。

児童の海水浴には、グレン隊・太陽族の出没する射的場や遊戯場を避けて静かな場所がえらばれ「ここなら安心してこどもが遊べる」と先生は話しておられました。

上)さあ海へ来たぞ!先生と一緒に大はしやぎ。

左)毎日屋食後の一時間はおひるねですが、早く泳ぎたくてたまらないこどもたちは、なかなか寝つかれません。カメラを向けるとあわててタヌキ寝入りをする児童もいました。

鎌
倉

臨
海
学
園



上=九段中生徒の遠泳、この学校では“皆泳”が目標で、泳ぎの達者な若い先生を中心にキビキビした訓練ぶりを見せていました。遠泳には女生徒も参加しみごとに泳ぎ切りました。
右=遠泳を終えた後、海岸で食べるおやつの味は又格別です。（8月5日）



ここでの生活は温泉小学校を基点に、近くの山歩きが主です。

上=大涌谷一神山一駒ヶ岳のハイキングコースを行く児童

右=花火大会（7月30, 31日、千桜、永田町、佐久間小児童）



ここは、千葉県安房郡保田町の吉浜小学校の校舎を一夏拝借し、開いているもので、一期百名程度収容することができます。鋸山をのぞみ、わん曲した海岸は遠浅で、ほとんど波がなく、澄んでいます。区内中学生が、だいたい四泊五日づつ交替で水泳訓練をします。

保田

臨海学園



五年前から箱根宮の下にある温泉小学校の好意で、同校の教室がふたたび借りられるようになります。以来毎年、小学五、六年児童が四泊五日づつ、ここで涼しい夏を送っています。

箱根

林間・学校



※を買い、女子専用宿舎食堂兼ホールなどを増築し、写真のように樹木に囲まれたしようじやな高原学校となりました。まわりには、高原特有の白樺も植えられ、毎朝梢に来てなく鶯や郭公の鳴き声が、この学園にのどかな高原気分をたたえています。ここには中学生一期百二十名が、五泊六日づつ生活します。



上=生徒たちは毎朝小鳥のさえずりで目がさめます。朝は真夏でも15・6度という涼しさで、澄んだ大気を胸一パイに吸つて、まず朝の体操から。



上=高原の道を行く。ここへ来た生徒は、碓氷峠、鬼押出しなどハイキングを楽しめます。

右=「ああ早く食べたいなあ」空気が良いのと、ハイキングなどでおなかのすくのも無理はありません。献立は区の栄養士がつくり、ふだん以上に体を使う生徒の栄養補給には細心の気配っています。（8月1, 2日 いずれも練成中生徒）



昨年から開設されたこの軽井沢高原学校は、浅間山が間にせまる信州沓掛の閑静な別荘地帯にあり、区議会議員三十六名が、その報酬から月三千円づつを区に寄付してでき上つたもの。今年に入つて更に敷地二千六百坪※

軽井沢

高原学校

多摩川

林間学校



多摩川の清流にのぞみ、武藏野の
自然に囲まれた南多摩郡七生村に
ある林間学校は空気はよし、環境
はよし、都心のことどもたちにと
つてここは絶好の遊び場です。



上=理科の観察、近くの林や草むら
は昆虫や植物の採集に好適です。

右=「ああ、いい気持」やはり水遊
びは一番楽しそうです。（7月31日
富士見小児童）

皇居内

緑蔭学校



小学校二、三、四年の体の弱い児童
のために、毎年皇居平河門の涼し
い木蔭が提供されます。都会の真
中にこんなところが……と思われ
るほど静かな環境の中で、昆虫採
集をしたり、馬術の練習を見たり
又吹奏楽を聞いて楽しい一週間を
過ごします。

上=木の枝にとりつけた速製のブランコは公園のとは又違った趣きで、
喜ばれています。

右=スケジュールの中には、音楽を
聞く会があり、皇宮警察音楽隊のお
じさんたちの演奏する、行進曲や童
謡が、こどもたちの人気を呼んでい
ます。（6月3日）

